

第 1 3 5 1 回 京都市教育委員会会議 会議録

1 日 時 平成 2 8 年 3 月 2 4 日 木曜日
開会 1 0 時 0 0 分 閉会 1 2 時 0 0 分

2 場 所 京都市役所内 教育委員室

3 出席者	教 育 長	在田 正秀
	委 員	秋道 智彌
	委 員	鈴木 晶子
	委 員	星川 茂一
	委 員	高乗 秀明

4 欠席者 委 員 奥野 史子

5 傍聴者 0 人

6 議事の概要

(1) 開会

1 0 時 0 0 分，教育長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第 1 3 5 0 回京都市教育委員会会議の会議録について，教育長及び全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

議案 1 件，報告 2 件

イ 非公開の承認

議案 1 件，報告 2 件については，市長の作成する議会の議案に対しての意見の申し出に関する案件及び人事に関する案件であり，京都市教育委員会会議規則に基づき，非公開とすることについて，全委員の承認が得られた。

ウ 議決事項

議第55号 京都市立小学校条例の改正について

(事務局説明)

○市村 学校統合推進室担当課長（醒泉小・淳風小統合に伴う条例改正について）

醒泉小学校と淳風小学校の統合については、昨年4月にも御報告しているが、平成25年度から本格的な統合協議が開始され、平成27年4月に地元から統合について要望書が提出された。現在、統合に関連する協議については、関係4学区の自治連合会の代表者、2校のPTAの代表者、学校及び教育委員会が一体となり協議を進めている。

平成27年4月の要望書の提出後、平成28年3月7日、新しい校名の地元案を、「下京雅（みやび）小学校」とする要望書が提出された。校名の選定については、「醒泉・淳風統合校開校準備協議会」において、「新校名もしくは校名に使いたい漢字」を地元から広く公募することを決定し、多数の応募があった。応募を受け、「醒泉・淳風統合校開校準備協議会」内の「校名・校歌・校章検討委員会」の作業部会において3ヶ月にわたり協議された。応募の中から、地域を表す「下京」、漢字一文字の中から「雅」が選出され、2つを組み合わせ、校名を「下京雅」とすることが決定された。

選定理由としては、2校とも明治2年創設の番組小学校がルーツであり長い歴史を持っているため、統合にあたり、未来を切り拓く子どもたちのために、新しい校名で新しい歴史をスタートさせようと考えていただいた。一方で、これまでの歴史・伝統を引き継いで欲しいとの思いを込められ、さらに、地域の中で子どもが育っていくことを表す「下京」と、京都の心・京都らしさを表した「雅」を組み合わせている。

また、他の応募作品の中には、「堀川」・「輝」・「響」・「彩」があった。

校名要望書の提出を受け、平成28年5月の市会に提案する。

○堀本 学校統合推進室計画課長

(向島地域小中一貫教育校の創設に係る一次統合に伴う条例改正について)

向島地域小中一貫教育校については、平成26年7月14日に「平成31年度を目途に、3小学校を統合し、向島中学校と合わせた施設一体型・小中一貫教育校の創設」を求める要望書の提出を受け、現在、平成31年4月の開校に向けて、地元3学区、3小1中学校PTAの代表で構成する「向島中学校区小中一貫教育校創設協議会」と連携して、開校準備を進めている。

小中一貫教育校の新校舎を、校区の中心地となる現二の丸北小学校敷地に建設する計画であり、校舎建設に伴い、平成29年4月に向島二の丸小学校と二の丸北小学校と一次統合する予定である。一次統合の校名については、地元で御検討いただいた結果、平成28年3月3日に、「向島二の丸小学校」を地元案とする校名要望書が提出された。校名要望書の提出を受け、平成28年5月の市会に提案する。

校名選定理由は、現在の校名とすることで、保護者と児童の負担を少なくするとともに、小中一貫教育校の開校準備に注力でき、また、二の丸北小学校は、30年前に向島二の丸小学校から分離して独立開校した学校であり、分離前の校名を継承することにより、統合後の学校の変遷が明瞭となり、将来にわたり歴史的経過が分かりやすく引き継がれやすいためである。

しかし、あくまで一次統合は2校の対等な統合であるため、今後、両校の特色を活かした教育を進めていくこととしている。二の丸北小学校だけが、平成28年度で閉校し、無くなることになり、二の丸北小学校の地元・保護者の皆様には様々な思いがある中で、2年後に向島中学校区が1つになるとの思いから、新しい校名に拘らず、小中一貫教育校に向けた準備に注力していくことを御決断された。

また、小中一貫教育校の校名についても検討が進められており、昨年、地域住民の皆様には校名を公募された。350点程の応募があり、その中から「秀蓮（しゅうれん）」という言葉を使うと決定された。秀蓮の「秀」は、優れているという意味がある。また、昔は向島のあたりに巨椋池があり、蓮が多く咲いていたことから、「歴史に誇りを持って、優れた人材に成長してほしい」との思いが込められている。

なお、「秀蓮」の前後に「京都・向島・伏見」「館・学園」を加えた最終的な校名は、義務教育学校の取扱いが決定された後、最終決定される予定である。

（委員からの主な意見）

【秋道委員】向島の校名について、巨椋池を由来とされた地元の方の思いは素晴らしいと思う。協議会で検討されているとのことだが、協議会のメンバーの構成は。

【事務局】地元3学区から各3名と、4小中学校のPTAの代表者と学校を加えて構成している。最終決定は創設協議会で行うが、それまでに各学区の協議会や各校のPTA特別委員会で協議されている。

【秋道委員】子どもたちの意見は反映されていないのか。

【事務局】4小中学校の子ともたちにも校名案の募集が行われ、約250点の応募があった。それも含めて、合計350点の応募をもとに校名の検討を進め、最終的に「秀蓮」と選定されたものである。

【秋道委員】広報や公示はしているのか。

【事務局】一次統合の校名については、2校それぞれのPTAで協議された結果、総会で決議されている。地域住民の方へは創設協議会だよりを全戸配布し、周知されている。参考に添付している創設協議会だよりは、今年1月に発行したものであり、小中一貫教育校の校名に「秀蓮」を使用することが決定された時のものであるが、次回の協議会で一次統合の校名要望の内容について決定する旨も記載している。それを踏まえ、平成28年2月に協議会を開催され、一次統合の校名を「向島二の丸小学校」とすることを決定され、3月3日に校名要望書を提出された。

(議決)

教育長が、議第55号に対して採決を行い、各委員「異議なし」を確認。

その他、報告2件については、人事に関する案件のため非公開

(4) その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

- ・3月20日 3園館連携事業「きょうと★いのちかがやく博物館」への
京都市青少年科学センターの参画について
- ・3月22日 平成27年度「京都市立学校文化芸術賞」表彰式の開催について

○事務局から当面の日程について説明

(5) 閉会

12時00分、教育長が閉会を宣告。

署 名 教育長